

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

<研究課題名>

医療保険制度への関心・理解度と地域在住高齢者の身体機能、運動習慣、介護予防事業参加状況等の関連性についての検討

<研究期間>

実施承認日～2023年3月31日

<研究の目的・意義>

名古屋大学と東郷町は地域住民の中高齢者を対象に、加齢による身体機能・認知機能低下の病態発生に関わる要因を明らかにすることを目的として共同研究を行っています。この共同研究では身体機能・認知機能の評価に加え、質問紙によるアンケート調査を実施しており、これらのデータを経時的に収集しています。今回は、新たに地域在住高齢者の医療保険制度への関心・理解度が身体機能、運動習慣、介護予防事業参加状況等にどのような影響を与えているのかを調査すべく、アンケート調査と各身体機能検査の結果を基にその関連性について調べていきます。医療保険制度については団塊の世代が後期高齢者となり始める2022年以降、より一層の財源ひっ迫が見込まれています。この問題を解消するための一つの方法として、医療への関心・知識を高めて自分自身の健康状態を正しく理解することで、必要な処置は自分で行い不必要な通院を避け、無駄な医療費を削減する動き（セルフメディケーション）が推進されています。しかしながら、今のところ個人の医療保険制度への関心・理解度がセルフメディケーションに直接関連しているかどうかは分かっておりません。今回の研究でその関連性が示されれば、医療費削減のための新たなアプローチ方法を提案する上で有益な情報となり得ると考えられます。

<研究対象者>

2022年度の名古屋大学・東郷町の共同研究である健診事業へ参加された方のうち二次利用に関する同意が得られた65歳以上の方。

除外基準としては、歩行に介助を要する方、コミュニケーションをとることが困難な方、重度の認知機能低下がある方、重度な心疾患、呼吸器疾患、筋骨格系疾患を有する方、転倒リスクが非常に高い疾患（脳卒中やパーキンソン病）を有する方、医師が健診を行うのに不適応と判断された方とします。

<研究方法>

2022年度の名古屋大学・東郷町の共同研究である健診事業へ参加された方で、65歳以上の方のデータを二次利用させていただきます。

この研究では医療保険制度への関心・理解度が、身体機能や運動習慣、介護予防

事業参加状況等にどう影響しているのかを探索していきます。医療保険制度への関心・理解度については健診事業で行われるアンケートの結果を用い、身体機能評価として、握力、5回立ち上がりテスト、Timed Up and Go test、10m歩行速度の結果を利用させていただきます。また、基本情報としては年齢、性別、併存疾患、同居家族の有無、身長、体重、筋肉量を利用させていただきます。これらの情報を解析し、医療保険制度への関心・理解度と身体機能、運動習慣、介護予防事業参加状況等の関連について、検討させていただきます。

<予測される利益・不利益について>

- 1) 本研究は過去に収集させていただいたデータの二次利用にて行う研究であるため、対象者に新たな危険や不利益が生じることはございません。
- 2) 対象者の個人情報厳格に守秘させていただきます。また、本研究以外に対象者のデータを使用することはございません。
- 3) 本研究への既存データの活用を拒否されたとしても、特に不利益を被ることはございません。また、理由の如何を問わず、いつでも既存データの活用の拒否をお申し出いただけます。

<本研究の実施について>

この研究は名古屋大学生命倫理審査委員会の承認を受けた上で行われます。もしも対象者の皆様がこの研究へのご自身の情報の利用を望まれない場合には、この研究には使用いたしませんので、下記連絡先までご連絡・ご相談ください。

しかしながら解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがありますのでご了承ください。

連絡先：

名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻

研究責任者 教授 杉浦英志

住所 名古屋市東区大幸南1-1-20

電話 052-719-1364

FAX 052-719-1506

苦情の受付先：

名古屋大学医学部保健学科 総務係

電話 052-719-1504

<個人情報の保護について>

研究に用いる情報は全て匿名化して誰の情報かわからないような形にしてか

ら解析を行います。したがって対象者の皆様の個人情報に他に漏れる心配はありません。

<費用について>

この研究に関して、参加者の方へご負担いただく費用はありません。また謝礼もございません。